

河内長野市第 6 次総合計画 基本構想（案）

千年都市と、みんなの未来。

河内長野がなぜ、古くから多くの人に愛されてきたのか。その理由を知ること、これからの未来を考えるヒントが見えてくるかもしれません。

昭和の後期にいくつもの団地が開発され、自然豊かな地に憧れのマイホームを求めて、たくさんの世帯が引っ越してきた河内長野。30年あまりで人口が3倍になるという急激な変化の中、先人たちは時代の変化に合わせて、暮らしに必要な施設や設備、制度や支え合いのしくみを懸命に築いていきました。時が経ち、河内長野で育った子どもたちが大人になってこの場所を離れ、現在では人口減少や少子高齢化が進んでいることから、「まちの未来はどうなるのだろう」と心配する声も聞かれます。

けれど、河内長野は今、大きな転換点に立っています。

この冊子の前半では、そんな“まちの今”を知ることができるように「あれは何?」「どうして?」という素朴な疑問に答えながら、河内長野というまちがこれまで培ってきた魅力を見つめ直します。後半では、“まちの未来”に眼差しを向けて「10年後に、どんなまちになったらいいか」「どんな風に暮らしたいか」「河内長野でこんなことをやってみたいな」と想像を広げながら、めざしたい未来像を描きます。

市民のみなさんの声をもとに、どんな未来をつくりたいのか、何を大切にしたいのかを一つひとつ言葉にして、この一冊ができあがりました。手に取ってくれたみなさんが、ワクワクしながら未来への想いを膨らませるきっかけになればうれしく思います。

それでは一緒に、河内長野の未来をのぞいてみましょう。

Q.
河内長野って、
今どうなってるの？



A.
ターニングポイント

転出と転入の差がわずかとなるまでに回復。
特に0～14才の転入は、数年連続で転出を上回り、
子育て世帯から選ばれるまちに。

ターニングポイント # 再生フェーズ

Q.
どうして、若い世帯が
引っ越してきているの？



A.
空き家の循環

大阪府内最小だった空き家率に変化のサイン。
※町村を除く。
長く住み続けるまちから、住み継ぐまちへ。

空家率の変化

Q.
大阪のなかでも、
河内長野が
いちばん強いのは？



A.
地盤

「強い地盤」ランキング、ダントツの最高スコア。
大阪府内で1番地盤が強い河内長野。

地盤が固い

Q.
河内長野は、
安心して住めるまちなの？



A.
防犯も、大阪一

犯罪発生率、大阪府内、最小。 ※町村を除く。
防災も、防犯も、安心のまち。

犯罪発生率

Q.
窓をあけると、
近くに見えるのは？



A.
みどり

自然が身近にある暮らし。
緑視率が高く、森林面積も大阪府内1位。 ※町村を除く。

森林面積67%

Q.
川を流れてるのは？



A.
きれいな水

大阪府内で唯一、全域水質AAの石見川をはじめ、
ムササビやサンショウウオも暮らす、美しい自然。

水質AA # 生物多様性

Q.
人が集まっている、
あの場所は？



A.
道の駅

人気ランキング大阪府内1位。
道の駅 奥河内くろまろの郷、絶好調の発進。

#人気ランキング

Q.
地域の自然や暮らしを
守っているのは？



A.
まちのみんな

環境への意識も高い、河内長野のみんな。
まちの豊かさにつながる、一人ひとりの営み。

#リサイクル率

Q.
新しく暮らしはじめた人も、
馴染みやすいのはなぜ？



A.
心地よい つながり

新しい人にひらかれた河内長野。
伝統も、新しい挑戦も、大事にできるまち。

#世代を超えたつながり

Q.
河内長野に
たくさんの人が暮らし始めて、
何年くらい経つ？ →

A.
千年

「中世に出逢えるまち」として日本遺産にも認定。
文化遺産に息づく、たくさんの人々の営み。

千年

Q.
河内長野で千年、
続いてきたものは？ →

A.
ふだんの暮らし

文化財だけでなく、この地で連綿と続いてきた
「暮らし」そのものが、まちの資産。

ふだんの暮らし

ふだんを生きる、じぶんが生きる。
知るほど暮らすほど「好き。」が深まる千年都市。

10年後、私たちは
どんな「ふだん」を生活しているのだろう。

まちが元気、みんなも元気。

深呼吸したくなる豊かな自然、美しく整備されたまち並み、充実した子育て環境、教育や福祉、活気ある産業や観光、農業に林業、そして、人と人の心地よいつながり。10年後の河内長野は、もっと美しくて、もっといきいきしたまちに。みんなの「ふだん」も元気にあふれています。

ホタルも、子どもたちも、光ってる。

河内長野には、子どもたちの成長を豊かに彩る環境があります。森に生きる野鳥や昆虫たちの観察、木工教室、農業体験、川遊び、たくさんある公園でかけっこ、子どもたちが顔を輝かせながらホタルを見つめる初夏の夕べ。河内長野の宝は子どもと自然。いっしょにすくすく育っています。

揺るがない安全と安心感。

10年後の河内長野は、今よりもっと安全で、もっと大きな安心感に包まれて暮らせるまちに。それを支えているのは、大阪一を誇る地盤の固さと治安の良さだけではありません。土砂崩れなどの災害への対策や、医療・救急・消防・道路・水道などの基盤づくりが進み、安全・安心と「同居」できる健康的な毎日が、みんなの誇りになっています。

人のつながりも、大きな安心に。

地域の人たちも、河内長野の安全・安心を支えるのに、大事な役目を担っています。学校に通う子どもたちのための見守り活動や、防災・防犯活動など、一人ひとりの目配り・心配りが、みんなの安心を育んでいます。人と人とのつながりが広がり、深まることで、安心はもっと、大きなものになっています。

暮らしの中に、「できる。」がふえる。

まちの情報をみんなで伝え合ったり、忙しくて市役所に行く時間がなくても電子手続きで窓口サービスを利用できたり、病院に通えなくても遠隔で診療を受けられたり。新しいテクノロジーと、人と人の支え合いによって、これまで諦めていたことや難しかったことが、どんどん「できる。」に変わっています。

好きなときに、好きなところへ。

自動運転などのテクノロジーや、人と人の助け合いを活かして、マイカーがなくても、免許を返納しても、自分の行きたいところへ出かけることができます。新しい地域モビリティやバス・鉄道、ご近所さんとの乗り合いを組み合わせ、いろんな移動が実現。移動中に生まれる人と人の“ふれあい”も、楽しみのひとつに。

「じぶん」が活きるまちって、
どんなまちだろう。

みんなが、主役。みんなが、ファン。

年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、一人ひとりの個性が活かされて、みんなが好きなこと、得意なことを楽しめるまち。そして、なりたい自分に近づけるまち。いろいろな人がいて、誰もがどこかに「主役」になれる場所を持っていて、それぞれが誰かの「ファン」でもあって、お互いに応援し合っています。

支えて、支えられて、活かし合って。

誰かがいつも「支えられる側」になるのではなくて、自分の長所や特技・経験を活かして、誰かを「支える側」にもなれるまち。お互いに気兼ねなく頼みごとができたり、周りの大人たちに支えられて成長した子どもが、自分も誰かを支える側になったり、支え合いの循環が広がっています。

あたらしい一歩、踏み出し放題。

年齢や経験を重ねても、失敗を恐れずいろんなことにチャレンジできて「このまちでよかった。」と思える場所。新しい一歩を踏み出すとき、「このまちがいい。」と思える場所。周りのみんなも、その一歩を応援してくれるから、やりたいことを次々と実現させることができます。

地域がまると、学校。

学校でたくさんのことを学べて、学校の外にも学びがいっぱいあるまち。河内長野の子どもたちは、地域でのさまざまな経験を通して、学力とともに豊かな心や健やかな体を育んでいます。「生きる力」をそなえ、知・徳・体の調和がとれた子どもたちが、社会で活躍することがまちの希望になっています。

学びを、誰かの喜びに。

いくつになっても、多様な学びの場が身近にあるまち。そして、学んだことを自分の中だけに留めるのではなくて、知識や技術を、人のため、まちのために活かすことで、誰かの喜びも、人の役に立てる自分自身の喜びも生まれています。豊かな「学び」と「喜び」の循環を、河内長野から。

住（じゅう）を、もっと自由に。

戸建てや団地、マンションでの暮らしも、古民家の活用も、いろいろな住み方、暮らし方を自由に選択できるまち。たとえば、平日はニュータウンで生活し、週末は集落の田畑に出かけたり、空き家をリノベーションして仕事の拠点にしたり、多様な地域の魅力を活かして暮らしの楽しみ方が広がっています。

これから、どんな「好き。」を
深めていけるだろう。

まちの顔を、笑顔でいっぱい。

“まちの顔”になる場所がいくつもあって、たくさんの笑顔があふれる場所に。みんなの手で景観を美しくしたり、おいしいお店や楽しいスポットができたり、商店街の新しい活用法にみんなでチャレンジしたり。地元の人、観光客の人たちも、いろんな所でいろんな「好き。」との出会いが生まれています。

サクセスフルな、サステナブル。

自然を守る活動がもっと盛んになり、大切な資源が循環し続けるまちに。自然だけでなく、道路や公園などの社会基盤も、自治会活動などのコミュニティも、農業や地場産業も、市役所の安定した運営も、みんなの力で安心して暮らし続けられる環境が整い、持続可能なまちづくりのモデルケースになっています。

“ここにしかない”時間を求めて。

都心から30分の場所にありながら、自然や文化・歴史を感じられるまち、河内長野。自然と親しむアウトドア体験、ながく大切に守り継がれてきた神社仏閣。“ここにしかない”時間がゆっくりと流れていて、国内外から多くの人を惹きつける魅力になっています。慌ただしい日々の中で失った時間を取り戻し、豊かな時間を蓄えていく。そんな時間の楽しみ方が、ここにはあります。

地産地消で、日本一の給食カレーを。

恵まれた自然と農業の担い手たちの力を掛け合わせて、地産地消が進み、河内長野産のおいしい食材が、まちの食卓を彩っています。学校の給食でも地元で採れた野菜をつかった“日本一おいしい給食カレー”がつくれるくらい、農業と食育が活発になり、みんなの健康を支えています。

“推し”と出会えて、育てるうれしさ。

地域に息づく歴史や文化財、お祭り、よく行くお店や公園、河内長野を拠点にするスポーツチームやアーティスト、企業やボランティア団体……、一人ひとりが自分の“推し”と出会えて、ただ遠くから見守るだけではなく近くで応援できるような、ワクワクするつながりがまちにあふれています。

「好き。」が集まれば、すごい力に。

河内長野がみんなの「好き。」であふれたまちになって、みんなで見つけて持ち寄ったいくつもの魅力が「まちのブランド」になり、広く全国へと伝わっていく。みんなで愛着と誇りを持って、このまちでの暮らしを楽しむことが、そのまま、まちづくりにも活かされていく。そんな未来が、始まろうとしています。

一人ひとりの「好き。」が、 みんなの未来をつくっていく。

河内長野は今、とても大きなターニングポイントを迎えています。若い世代の人たちがこのまちを選び始め、まちの風景に少しずつ変化が生まれています。

もともと河内長野は、地盤が固く、犯罪が少ない、安全・安心なまちです。過去から大きな災害にあうこともなく、多くの文化財が今に受け継がれています。大阪の都心から30分、山の緑やきれいな川に恵まれ、かわらぬがく続く「ふだんの暮らし」が、ここにはあります。大人になって一度この地を離れても、またいつか帰りたくなるような、かわらない心地よさが、河内長野には息づいています。

そんなまちの魅力を活かせば、子どもたちがのびのび成長できる環境も、自分らしい暮らしの楽しみ方も、年齢にかかわらず新しいことに挑戦するチャンスも、もっともっと広がっていくはずです。

「このまちの、ここが好き。」

「次は、こんなことをやってみたい。」

そんな一人ひとりの思いが、河内長野の未来をつくる力になります。これからの10年、そしてその先も、みんなの「好き。」を持ち寄って、千年都市を豊かな彩りで満たしていきましょう。

かわらずなが〜く
ふだんのしあわせ

